

短 報

シロバナコシジシモツケソウ (大場秀章^a, 加藤信英^b)

Hideaki OHBA^a and Shin'ei KATO^b : A White Flowered Form of *Filipendula auriculata* (Ohwi) Kitamura. (Notulae ad Plantas Japoniae II)

シモツケソウ属は北半球に広く分布するが、東アジアで多様化している。これまでの研究者の見解をまとめると、日本には4または5種があると考えられる。種レベルではキョウガノコの正体、そしてそのエゾノシモツケソウならびにコシジシモツケソウとの関連が大きな問題点として残されている。すなわち、キョウガノコがシモツケソウとコシジシモツケソウの雑種由来なのか、それとも、エゾノシモツケソウを含む東アジア東部に分布する野生種そのものあるいはそれから由来するものかという点である。この問題はいまだ実証的に検討されていない。

キョウガノコにはナツユキソウと呼ぶ1型があるといわれている。それは紅紫色花をもつキョウガノコとは白色花をもつという点が異なるといわれる。シモツケソウには花色の変化がみられるので、キョウガノコが雑種由来であれば、白花品が存在する可能性は高い。ところが、エゾノシモツケソウやコシジシモツケソウでは白花品は正式には記録されていない。コシジシモツケソウの白花品は1982年に新潟県植物分布図集第3集で池上義

信・石沢進がシロバナコシジシモツケソウの和名を与え、新潟県三島郡から報告している。

最近、著者の一人、加藤は山形県でコシジシモツケソウの白花品を見いだした。新潟の標本は確認していないが、上記のことからコシジシモツケソウでは白花品がまれながら存在しているといえる。このことは単にコシジシモツケソウだけでなく、上記のようにキョウガノコの正体を明らかにするうえでも意味があると考えられる。

Filipendula auriculata (Ohwi) Kitamura in Acta Phytotax. Geobot. **20** : 199 (1962).

f. *chionea* H. Ohba et S. Kato, f. nov.

A typo flore niveo differt.

Typus : Japonia. Honshu, Pref. Yamagata, Nishi-tagawa-gun, Atsumi-machi (Shin'ei Kato 2, 24 June, 1990, TI).

Nom. jap. : Shirobana-koshijishimotsukesou (Ikegami and Ishizawa 1982).

(^a東京大学総合研究資料館,

^b山形県東田川郡 [redacted])

Hideaki OHBA^a and Shinobu AKIYAMA^b : Lecto- and Neo-typification of 22 Taxa of Asian Saxifragaceae

アジア産ユキノシタ科22分類群のレクトタイプとネオタイプ (大場秀章^a・秋山 忍^b)

We selected the lecto- and neo-types of 22 taxa of Asian Saxifragaceae (Ohba and Akiyama 1990). The photographs of the lecto- and neotypes and also the syntypes are given in the above cited literature. All the types are kept in TI.

1) *Chrysosplenium barbatum* Nakai, Tyosen

Syokubutu 334 (Mar. 1914) ; in Fedde, Repert. **13** : 273 (May 1914).

Lectotype. Corea (=Korea) media. In humidis secus torrentes silvis Koang-neung. T. Mori no. 60, June 2, 1912.

2) *Chrysosplenium discolor* Franch. et Sav. var. *viridescens* Suto in J. Jap. Bot. **11** : 487